

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393400060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市市前原西3丁目35番2		
	平成26年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年11月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

運営理念にある「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活していただけるように」をモットーに、スタッフ全体で支援するよう心がけている。日々のケアの中で問題・疑問が生じた場合など、スタッフ同士で話し合いを行い、解決策を見出しながらケアに生かしている。日常生活の中で、歌を歌う・食べる(味覚)・身体を動かす等、楽しみを得て頂けるよう心がけ、笑顔で日々を過ごせるよう努力している。経営母体に有床診療所が併設、連携により医療面での健康管理が図れ、安心感も得ている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営母体はグループホーム等を運営する医療法人であり、同敷地内にはクリニックがあり、24時間体制の対応が可能となっている。医療支援に支えられ、つい終の棲家としての体制が整えられている。日々のケアで見つかった医療面での心配事は法人の看護師に相談したりして連携が図られている。利用者の希望により、喫茶店や買物等家族の協力を得て、個別対応を行っている。また、四季を感じてもらうため、花見、紅葉等折に触れ外出支援を行っている。管理者は、研修や勉強会等各職員のレベルに合わせた指導をしており、管理者と職員との良好な関係がうかがえた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でその人らしく生活していただけるように」を理念に、日頃よりスタッフと話し合いの場を持ち、日々のサポートへ活かしている。	ホームの理念は、玄関、事務所、ホールに掲示されており、いつでも振り返ることができるようになっている。一日1回でも笑顔が見られるような声かけをし、日々のケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に地元自治会、老人会に参加を呼びかけている。地元自治会の防犯パトロールを目的としたウォーキングクラブに登録、参加している。自治会より年間行事参加のお誘いもあり、参加もしている。	地域住民のボランティアの受入れや小中学生の清掃活動、職場体験などの受入れも行っている。保育園には年1回利用者が訪問し、交流に努めている。近隣の人より、要介護者の相談を受けてアドバイスをしたりして、地域との関わりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学・来設を自由に受け入れているが認知症に対する理解・支援の方法・助言の発信までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議終了後に報告書を作成。出席者(市担当課・自治会長・ゲスト・家族)及び欠席者(欠席した家族)に報告書を配布している。又、会議で出された意見はミーティングにてスタッフ全体で共有・話し合っている。	年6回奇数月に開催されている。家族には会議の出欠を送付する際、返信封筒を同封し意見を出してもらおうよう配慮している。出された意見等は推進会議の議題に出したり、ミーティングで話し合っている。また、会議では地域の行事や時期に合わせた課題なども話し合われている。	市職員または、地域包括支援センターの職員等が毎回参加してもらえるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の推進会議の参加時、ホームたよりの送付等、日頃より相談・情報提供をしてホームの様子はよく理解して頂いている。介護相談員を2～3ヶ月に1回受け入れている。利用者の相談相手になって頂いたり運営現場を見て頂いている。	市役所へ訪問して認定調査や更新認定の相談をしたり、アドバイスをもらうなど協力関係が構築されている。また、職員は市主催の研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期ミーティング時に事例の検討、禁止行為の認識、再確認をし、理解に努めている。	基本的に身体拘束はしないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族より同意書をもっている。職員には、ミーティング時にスピーチロック等の事例を挙げ話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期ミーティング時に話し合いの時間を設け、研修を実施、知識・意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業等の対象者はいないが、必要な時は支援できるよう、ミーティング時に研修の時間を設け、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をして理解を得られるように話し合っている。その後の質問・問い合わせにも随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者の普段の様子等を報告しながら要望が聞けるよう心がけている。問題・課題は朝礼時・ミーティング時等で職員で話し合う機会を持ち解決に努めている。推進会議の参加案内にご意見を伺う用紙を配布している。	家族の訪問は多く、訪問時に意見や要望を言われる家族が多い。出された意見などはミーティングや申し送り等において職員間で共有している。年1回家族参加の夏祭りを開催している。また、推進会議後に家族が集まる機会も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者へは問題・事例発生毎に報告、月1回の法人全体の会議時に運営状況について話し合いをしている。各スタッフへは申し送り・ミーティング時に自由に意見を出す機会を設け話あっている。	ミーティングや申し送りにおいて、利用者の状況や実情を職員間で共有し、ケアにつなげている。管理者は職員の声に耳を傾け、要望等は臨機応変に取り組むことができるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は就業規則に基づき、職員がやりがいや向上心をもてる職場環境となるように配慮している。又、週2・3回ホームを訪れ 職場環境を把握、職員に声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者より実務者研修、県主催の研修等、外部の研修の案内、参加推進への働きかけがあり可能な限り参加させて頂いている。又、法人内(併設事業所合同)の勉強会も非定期だが実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の施設見学の受け入れもあり、少しずつではあるが交流が出来始めている、空床が出た際の営業活動時、他事業所との情報交換、相談を行い、コミュニケーションを図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面接時、アセスメントを行い本人のニーズをサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時、契約時にアセスメントを行い、家族のニーズをサービスにつなげている。本人面談後、本人を外し別の部屋等で家族とご自宅での様子をうかがったり、今後の相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に今何が必要なのか要望を収集し、できる限りの対応をしている。必要に応じて他事業所(他施設・居宅・包括)に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の業務(食事・配膳準備・掃除・洗濯)を職員も一緒に楽しんで行っている。又、日常生活においては、先輩として利用者から色々な知恵を得て日々の業務に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会時等に話をする機会を持ち、家族の思いを聞いたりホームからも相談を持ちかける事を行いながら共に支援できるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行っていた場所、お店等、できる限り希望に沿えるよう外出支援も行なっている。	家族の協力を得て、以前行っていた喫茶店や美容院等の行きつけの店に出かけている。電話の取次ぎや年賀状・暑中見舞いは職員と一緒に作成し、送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の得意としてきた事、活躍できる場所を職員で話し合い、活かし、皆が生活を共に楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや電話連絡を通じ家族と情報を共有している。退院後の相談も受ける事により関係を大事にしている。退所された利用者さんの家族とも交流があり、近隣の要介護者の相談や、アドバイスをすることもあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多く持つように心がけている(1日1回は全ての利用者に声掛けができるよう努力している)。家族からも情報提供を受けながら対応を相談している。	日々の声掛けや話題の中からヒントを得て思いをくみ取る努力をしている。また、利用者の生活歴を、家族から聞き希望や意向の把握に努め実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを通して個々の生活歴・好き嫌いを把握し、その人に合った日常生活を送れるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にその方の1日の行動・言動・身体・精神状態を記録し、情報を共有している。必要に応じ申し送り・ミーティング等で話し合い、対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望・意見を踏まえ、職員で話し合い 現状に合った計画を作成するように心がけている。法人内の他施設のスタッフとの交流にてケアの参考を得る機会を設けている。	介護計画は1年更新であるが、利用者の言動や家族の意見を聞き、変化があれば見直しが行われ、現状に合ったものになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録に行動・言動・健康状態・精神状態を記録し、申し送りやミーティングで情報を共有し、介護計画の見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・買い物・自宅等の外出支援など利用者や家族の要望・状況に応じて対応している。同一法人内の併設施設とも常に交流を持ち、他のニーズにも対応できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティアの受け入れや小中学校生徒の職場体験の訪問を受け入れ、文化・趣味などの交流を図り、楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の医療機関より各利用者が週1回往診を受けている。緊急時も24時間対応で診て頂いている。家族の希望で他医院(かかりつけ医・専門医)を受診している方もおり、通院の支援をしている。	24時間の医療支援が整っており、毎朝 在宅ナースの訪問があり利用者の体調管理がなされている。歯科や眼科の専門診療は、家族が対応しているが無理な場合は職員の支援もしている。特に専門見解がほしい場合(精神など)は職員同行としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間の連絡体制を確保している。体調の変化等は随時連絡している。又、看護師宛の申し送りノートを作成し、個々の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一敷地内の医療機関への入院では常に情報を受け、対応を相談している。他病院への入院の場合は見舞いをしながら情報提供や相談を行い、病状が安定した時点で受け入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院の際の医師からの状態説明の後や、重度化した時点で看取りの説明・終末期支援のあり方の相談を家族としている。医師・看護師・管理者・ケアマネ・家族と話し合い相談の結果、今後の方針を決め、カンファレンス等で情報を共有している。	終末期への支援対応は確立している。重度化した場合の入院後の退院時は、家族、医師、スタッフと再度話し合い、説明対応している。スタッフの不安はミーティングで話し合い協力体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、AEDの実践・救急対応の訓練を行っている。事故発生・救急時の対応についてミーティング時、議題として話しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害対策に基づき避難訓練・防災訓練を(年2回)実施している。自治会・民生委員への災害・緊急時の連絡用にホームの固定電話以外に施設用携帯、緊急時の担当者の携帯電話番号を公開し、緊急時の連絡に備えている。	法人全体で6月に避難訓練、11月に防災訓練を行い消火器の使用法などを学んでいる。11月末にはホーム自体の避難訓練を計画しており避難時間の測定や避難経路の確認をする予定である。また、災害時の食料と水、備品等の備蓄は用意してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような声掛けをしないよう対応に注意している。(入浴・排泄時等)又、個人的なお話をする時は、本人の居室で行うよう心がけている。	利用者の行動を読み取り、トイレ誘導はさりげなく対応している。居室への入室時はノックと声掛けをし、プライバシーを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力・状態に合わせられるよう常時希望を聞き、自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先させる事のないよう、常に個々に声掛けをしながら、その方のペースで生活できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って理美容院を利用している。なじみの美容院に出かけられる方もいる。季節に応じた服装ができるよう支援している。化粧ができる方は好きなように化粧をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝に本日の献立の説明をして食事に楽しみを持てるよう心がけている。できる方には食事の準備・配膳・片付けを手伝って頂いている。お菓子作り等、利用者と一緒に作る機会も年に数回設けている。	朝食のみホームで作るが昼・夕食は法人から届き、バランスの取れたメニューになっている。リクエストは、後日メニューに加えられる。また、正月はおせち風、3月はちらし寿司、七夕ソーメン、夏はひつまぶしなど季節感も大切にしている。クリスマスにはケーキの飾り付けを利用者と楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個人記録に記入し、スタッフは摂取量の把握ができている。法人内の管理栄養士の助言も得ている。個々の状態に合わせて摂取量の少ない方は家族に補助食品の利用を相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の洗浄や歯磨きを行い、一人一人の能力に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて声掛け・定期的なトイレ誘導を行い失敗のないよう心かけている。夜間、日中でのリハビリパンツ⇄オムツの切り替えやポータブルトイレの使用等の対応もしている。排泄チェック表も作成、本人の排泄パターンの把握に努めている。	立位の出来る利用者はトイレに誘導し、ポータブルトイレやリハビリパンツなど生活リズムや利用者一人ひとりに合わせたケアを心がけている。夜間の声掛けは睡眠の妨げにならない様に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を取り入れ運動する機会を作っている。食事の工夫や水分補給もできるだけ多く摂れるよう心かけている。便秘時には医師より処方された薬を個々に合わせた使用量で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、汗をかいた時、調子が悪くて入れない方は調子のよい時に入浴日に関係なく入浴して頂いている。	入浴日は水曜と日曜以外の週2日の午後と決まってはいるが、利用者の希望に合わせてる事も出来る。入浴拒否の利用者に対しては、スタッフを変えたり次の日にしたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣を活かし、好きな時間に休んで頂いている。寝付けない方には、無理に寝かせずお話を聞いたり、共にお茶を飲んで過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、スタッフは情報を確認している。服薬後の症状の変化も常に看護師に報告している。法人内の薬剤師もよく訪問し、状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で洗濯物干し・たたみ、食事準備・片付け、掃除等個々の能力に応じて手伝って頂き支援している。 日中パズル・計算問題・塗り絵・歌 好きな方それぞれの楽しみを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の悪い日以外は毎朝ホームの外周を散歩している。花見 紅葉狩り等、年間計画に入れている。本人の希望に応じて家族にも外出の支援を依頼している。	散歩は毎日の日課になっている。また、季節に合った外出を年間計画に盛り込んであり、混雑の少ない平日に外出を楽しんでいる。買物物は家族が対応しているが、希望があればホームでも対応できる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金で会計処理しているので全ての利用者が所有している訳でないが、個人でお金を持っている方もいる。希望の物を購入できるように共に買い物に行けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればかけ、かかってきたら本人に繋いでいる。手紙のやり取りの支援は現在できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアに大きな窓があり、外の庭を見ることができ、その時々季節を感じて頂ける。庭の畑で季節の野菜・花を栽培、利用者さん・ご家族から知恵をもらったり育て方の助言を得たりして共に楽しんでいる。	リビングは十分な広さがあり、2つのユニットが共同で使う事も出来、利用者とスタッフがレクリエーションを楽しんだり、個々にテレビの前のソファで寛ぎ、過ごすこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでテレビを見たり、居室で一人で過ごされる方、仲の良い利用者同士席で集まって話をしたり、思い思いに過ごして頂いている。自宅にいた時の習慣を継続して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使い慣れた家具を持ち込んで頂き少しでも安心した生活環境で暮らして頂けるよう配慮している。居室に家族の写真飾ったり、本人の好きなものを掲示・設置している。	居室は広くゆったりしている。床、壁紙、カーテンが居室ごとに変えてあり、利用者が自分の部屋がわかりやすくしてある。タンスや人形など利用者の馴染みの物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下の手すりを設置、居室のベッドも高さ調整ができるものを使用し 各個人の状態・能力に合った設備を整えている。トイレの表示・居室の表札等本人にわかりやすくしている。		